福岡市　T様邸

左手の玄関アプローチから茶庭につながる

洋風住宅に和の味わいを添える門扉

グリーンライフ産業株式会社
代表取締役　中村和男氏　福岡県福岡市

エクステリアが実現した洋風住宅と茶庭の妙

これからは、景観が住宅の価値を高めていく時代になるので、我々エクステリア業界も「家庭」という言葉が示す、家と庭…すなわち敷地全体をトータルに考え、施主様に「プロとしてのアドバイスができるように成長していかなければいけない」と思っています。

門から玄関へ　敷石のアプローチ

枝折戸から茶庭へ

施主様のご希望は「茶庭がほしい」というものでしたが、通路にしかならない狭い空間と、住宅の外観がまるっきり洋風であることがネックとなり、課題は「狭いスペースの中でいかに洋と和を調和させ、茶庭を実現するか」に絞られました。そこで門からアプローチ、そして奥へとつながる空間に少しずつ和のテイストを取り入れて、自然な流れで茶庭に通じることをイメージし、アプローチから庭に向かってより強く和のテイストを出すようにつくりました。まず隣家との境界部分には和の植栽として竹と笹を用いています。これは敷地の向こうに控える竹林との自然な一体感を出すことにも成功しています。

特に工夫した点は"いかに広く見せるか"と、庭を鑑賞するとき"洋の要素を混ぜない"ことです。広く見せるためには、敷地のコーナーをたっぷりの植栽で隠し、まだ奥があるように感じられる方法をとりました。洋の要素を抑える方法は、庭に視線を集めることだと考え、小さいながらも茶庭の決まり事をきっちりと押さえた完成度の高い庭に仕上げました。夜間にはさらに視線が集中するライトアップの演出もしています。

今回、予想以上の効果を発揮しているのが門扉です。洋とも和ともイメージを限定しない御影石のアクセントを施したデザインを選びましたが、うまく洋の中に和のテイストを予感させ、この住宅を象徴するイメージが表の顔となる門扉で表現できていると思います。

（グリーンライフ産業（株）　ガーデニングプランナー　林　美保子氏）

Tea Time ロンドンレポート

ロンドン郊外、美しい住宅街にお住まい（敷地400坪）の日本人大沼さんに伺った　イギリス人とガーデンについてのお話……

ガーデニングとネイバーウォッチングエリア (Neighbor Watching Area)

雑誌などで良く紹介される華やかな「イングリッシュガーデン」の陰には、実は大変な苦労があります。私が暮らす住宅街もそうなのですが、"ネイバーウォッチングエリア"というイギリス特有の決まりがあって、街並みを美しく保つために、エリアの住民すべてが庭の手入れを義務づけられています。まるで住民同士が監視し合う感じで、手入れを怠って雑草が生い茂ると、すぐさま、まわりから注意されることになります。

そのため、花が咲き始める3月から11月初旬まで、週末はガーデンセンター行きと庭の手入れに明け暮れます。しかしイギリス人は「街並みを美しくすることが暮らしを豊かにする」と考えていて、このようなライフスタイルがしっかり根づいているのです。